

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0870600269		
法人名	医療法人 宮田医院		
事業所名	グループホーム なごみの家		
所在地 (電話番号)	茨城県筑西市丙56-2		(電話) 0296-20-0753

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年12月4日	評価確定日	平成20年4月15日

【情報提供票より】(19年 11月 16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.8人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,500 円			

(4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1		名	要介護2	2	名	
要介護3	3	名	要介護4	4	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	89歳	最低	78歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 宮田病院 訪問看護ステーション
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大通りから奥に入った住宅街の中に違和感が感じられない外観のホームとなっている。ホーム内は以前、法人代表の祖父母の住宅だったこともあり、家庭的な造りを残したものとなっている。法人代表者や職員は利用者との関わりを大切にしており、信頼関係が良いものと思われる。にぎやかな雰囲気の中にも、個々が自由で落ち着いていられる、ゆったりとした生活が送られているように感じた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	研修に関して、同一法人内の研修会や外部研修への積極的な取り組みを現在も継続して行っている。法人内の委員会にもホーム職員が参加するように努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価を受けるにあたり、全職員で意義や理解を再確認し、管理者と職員が共に意見を出し合いながら作成に当たった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では地域の方にグループホームを知ってもらおうということを初めに議題にあげ、地域との繋がりを持つ取り組みを行ってきた。新年会の誘いがあったり、老人会との交流も深まりつつある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には定期的な報告を行っている。意見や苦情についても法人内での管理者会議での報告や書類等の提出をし、体制が整えられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが主体となり、地域の方をお呼びして催し物を開催したり、地域の方と利用者が一緒に避難訓練を行ったりしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の寄り合いや、老人会に参加し様々な関わりを持ちながら一人ひとりのこれまでの生活が継続できるように支援していくことを理念に盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員ミーティングなどを通じて共有が図れるように取り組んでいるが、ホーム独自のものでないため、職員個人の解釈になりやすいと考えられ判断した。	○	理念を具体化し、更に分かりやすくすることで、日々の中で職員間の共有が図れ、これまで以上に取り組んでいけることが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会に出向いたり、敬老会に参加するなど交流の機会を持ちながら共に声を掛け合いながら地元の方との付き合いを大切に考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム全体で評価の意義を理解しあいながら、職員と共に自己評価の作成に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、内容を事前に案内し意見交換を積極的に行い、ケアやサービスが反映できるような場として定期的に行っている。		

茨城県 グループホームなごみの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市や老人会会長との交流はあるものの、機会を活かせずに連携不足と感じられるため判断した。	○	ホームからの積極的な働きかけを行うことでさらに、市町村との連携が深まることができると考えられる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月に一回、定期的な便りなどを郵送や面会時の報告をしている。家族からの返事が返ってくることもある。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族からの意見や要望、苦情など言い易い環境づくりに努めている。相談ノートを使用し、必要時には管理者会議での報告をする体制が整えられている。苦情については決められた書式があり、法人にもきちんと報告をする決まりごとがある。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動や離職の場合には、利用者との関係性に十分な考慮をし、慎重に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人代表は法人内外の研修に積極的に受けられるよう、職員育成の取り組みを行っている。職員の参加した研修内容に関してはミーティングなどで報告され、議事録を残している。		年間の研修計画や、現在使用されている研修一覧表の作成・記載が望ましい。
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同じ市のホームに分からないことを聞き、運営方法や各ケアサービスに活かせるように取り組んでいる。今後も交流が継続できるように考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでの経緯として、本人や家族にホームのことを伝えたり、見学や相談などを通して行っている。定期的なホーム利用や家族同伴での宿泊も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は毎日のケアの中で、共に支えあう関係作りを大切に考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉から思いや暮らし方をくみとり職員全体で把握に努めている。家族からの情報収集の協力も得られている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム独自のプランチェック表を活用しながら、職員は担当制で作成にあたっている。ミーティングでの話し合いの場を設け、意見交換を行っている。家族や本人にも内容を事前に伝えたり、作成後の確認も実施されている。		今後はもっと、利用者本位の計画を職員間で考え、共有し、統一されたケアに繋がるものになることを望む。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングはプランチェック表を使い行われており、期間に応じての見直し、または必要時に随時行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の老健やデイサービス、病院など、家族と相談しながら対応できるように支援している。本人や家族の要望に応じて他の事業所の紹介もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ、法人の病院がメインになってはいるが、本人や家族の意向に添って、これまでの馴染みのかかりつけ医の受診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関するケア指針があり、入居時に家族に説明をし、同意を得ている。また、随時家族に今後の方向性の確認をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者と職員は共にプライバシーに関して十分な理解はされているが、個人情報提供同意書の家族サインがされていないため、判断する。	○	新聞の写真掲載や便りについてのプライバシー確保というものの意識を高めて欲しい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見学時や食事時に利用者のペースにあわせたゆったりとした暮らしぶりが窺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と会話を持ちながら、一緒に準備や食事をし、楽しみながら行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望にあわせていつでも入浴が可能となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のこれまでの生活歴を活かし、趣味の継続ができるなどの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ毎日の散歩、一人ひとりの希望にあわせて、外出が可能となる支援体制が整っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームは施錠しない方針をとっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のための避難方法や訓練、救急法、地域への働きかけなど年間を通して行っているが、基本的なマニュアルなどが用意されておらず、職員の意識がやや乏しいのではないかと考えられたため判断した。	○	マニュアルの作成や準備をしておくことで、職員の災害に対する意識がより高まると考えられる。

茨城県 グループホームなごみの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況にあわせ、かかりつけ医と連絡をとりながら、栄養摂取の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先の花壇やホーム内の装飾など季節感が感じられるものとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の個性が窺える居室となっており、大切な品々に囲まれた居心地のよいものとなっている。		